



Revived

Angels

in the Church of the Nativity, Bethlehem

甦りし天使たち

～ベツレヘム聖誕教会修復事業の軌跡～

2018

4.16(月) ▶ 8.3(金)

入場
無料国士舘大学
イラク古代文化研究所展示室

休室日：土・日・祝日、6月18日(月)、7月23日(月)、7月30日(月)

◎ただし、6月10日(日)、7月15日(日)、7月29日(日)は開室

◎開室時間 10:00～16:00

特別協賛：Piacenti S.p.A. Centro Restauri, Prato (<http://www.piacenti.org/it/>)
本展示はピアチェンテ社により提供された貴重なデータで構成されています主催：国士舘大学イラク古代文化研究所
協賛：NPO法人美術保存修復センター横浜
後援：古代オリエント博物館

RESTORATION CENTER
Piacenti S.p.a.
conservation of artistic and historical heritage

Text and Photographs:
Egisto Nino Ceccatelli and Matteo Piacenti
Video:
Tommaso Santi

数百年の年月を経て、修復により甦った煌びやかな天使たち



聖誕教会南側壁面のモザイクの修復

福音書の中でイエスの聖誕の地とされるベツレヘム。その地に立つ聖誕教会は、現存する最古の教会堂であり、長い年月と度重なる紛争によって崩壊寸前まで傷ついていました。

2012年にパレスチナ自治区内で初めてユネスコ世界遺産に登録された際にも、教会の躯体が崩落する可能性が指摘され、危機遺産としても同時に登録されました。このような状況の中で、イタリアのフェッラーラ大学によって教会堂の研究調査が行われ、保存修復事業については、イタリアのプラトに本部をもつピアチェンティ社が行うこととなりました。

本展は、NPO法人美術保存修復センター横浜の修復教室で学び、現在ピアチェンティ社で修復作業に従事されている佐々木愛子氏の仲介で、ピアチェンティ社の全面協力の下、貴重な画像や動画のデータを直に提供していただき、日本ではほとんど知られることのない教会堂の修復過程をパネル展示で紹介しています。現在までに、屋根、窓、外壁、内壁内の漆喰、拝廊、柱頭や柱身、壁面のモザイクなどの修復が進められてきていますが、2016年春に、漆喰で塗り固められた壁体の下から12世紀の十字軍時代に制作されたと考えられる天使のモザイクが新たに発見され、世界的なニュースとなりました。この天使の原寸大のパネルも展示いたします。修復家たちの卓越した技術によって甦っていくモザイクの姿を是非ご覧ください。

展示企画担当によるギャラリートーク

5/14(月) 14:30~15:30 先着40名

「ベツレヘム聖誕教会の歴史」

6/11(月) 14:30~15:30 先着40名

「世界遺産としてのベツレヘム聖誕教会」

7/9(月) 14:30~15:30 先着40名

「イエスは馬小屋で生まれたのか？」

会場：地域交流文化センター1階 講義室2

すべて
聴講無料
申込不要

スペシャル・ビデオ上映会

「ベツレヘム聖誕教会修復事業の軌跡」 上映時間45分

5/9, 5/23, 6/6, 6/20, 7/4, 7/18, 8/1の各水曜日の14時から

※上映会場につきましては、当日展示室にてご確認ください。



柱の修復を行う佐々木愛子氏

国士舘大学

イラク古代文化研究所展示室

〒154-0022

世田谷区梅丘2-8-17 地域交流文化センター2F

TEL : 03-5451-1926 FAX : 03-5451-1927

<http://www.kokushikan.ac.jp/research/ICSA/>

〈交通案内〉

電車

・小田急線梅ヶ丘駅下車 徒歩13分

・東急世田谷線松陰神社前駅又は世田谷駅下車 徒歩10分

バス

・小田急線梅ヶ丘駅北口ロータリー乗り場(乗車時間約3分)

等13「等々力操車所行」バスで「国士舘大学」下車すぐ

※運行本数が非常に少ない路線ですので運行時刻を事前にご確認ください

・JR渋谷駅西口バスターミナル30番乗り場(乗車時間約30分)

渋52「世田谷区民会館行」バスで終点下車、徒歩7分

